SPORTS FOR ALL
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
Vol. 112／ 2015 August
（月1回発行）

仙台大学 広報室

Monthly Report

仙台大学船岡南テニスコート開所式及び元テニスプレーヤー福井烈氏によるテニス講座を開催

仙台大学船岡南テニスコート開所式での集合写真

本学では、船岡南にテニスコート（ハードコート３面・砂入人工芝コート２面の計５面）を建設しました。東北・北海道唯一の体育系大学として、世界水準のテニスコートを学生に提供することにより、競技力向上、グローバル感覚が身についた指導者を養成することを目指しています。

8月8日（土）に執り行なわれた「仙台大学船岡南テニスコート」開所式には、本学の朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長や、来賓として柴田町の滝口茂町長、日本オリンピック委員会常務理事の福井烈氏（全日本テニス選手権シングルス優勝7回）らがご出席下さいました。

「体育系大学の施設として、テニスの普及・振興、指導者養成や競技力向上に有効活用していきたい」（朴澤理事長）。「テニスコートは地域にも開放し、テニスを通してさらに町が元気になるよう貢献していきたい」（阿部学長）。「全米オープンと同じ仕様のテニスコートを完成され、驚いている。このコートから、世界に羽ばたく選手が生まれることを期待している」（滝口町長）。「国際競技力向上を考えると、このような世界基準であるコートが必要。テニスから素晴らしい発信をしてほしい。そのためには強くなることが肝要」（福井氏）とそれぞれ、新しいテニスコートに対する思いを話されました。

日本プロテニス協会理事の松岡修造氏から届いた「仙台大学船岡南テニスコートご開校おめでとうございます。この情熱的なテニスコートが、仙台大学の皆さんにとって、そして日本のテニスにとって、大きな力になることを願っています」と祝電が披露されると大きな歓声と拍手が沸き上がり、祝電文は早速掲示されました。

【２面に続く】

＜　目　次　＞

仙台大学船岡南テニスコート開所式及び元テニスプレーヤー福井烈氏によるテニス講座を開催	1
仙台大学の専門教養演習授業の記録（『女川を元気にする会』に参加して）	2
ベトナム保健省及びバックマイ病院の関係者が来校	3
第１回仙台大学心池会杯争奪剣道大会 第3回仙台大学心池会練成会	4
青梅慶友病院の在職OB・OGが集まり懇親を深めました！	5
学生の競技結果等	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
TEL 0224-55-1802
FAX 0224-57-2769
Email:kouhou@sendai-u。ac。jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り
"A campus for Sports Education through English"
―LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!―
2017年創立50周年
50 years Anniversary of Establishment in 2017
SENDAI UNIVERSITY Since 1967
SPORTS FOR ALL ～スポーツは健康な人のためだけでなく、全ての人に～

開所式が終了後、福井氏によるテニスクリニックが行なわれ、本学硬式テニス部18名及びクラブ体験会に参加していた高校生８名の計25名が、日本トップレベルのプレーヤーから、情熱のこもった熱い指導を受けました。

硬式テニス部（女子）の坂祐希（さかゆうき）主将（運動栄養学科4年ー福島・須賀川桐陽高校出身）は「素晴らしい環境でプレーでき、モチベーションが一気に上がりました。東北のテニス王座一部リーグに昇格することが目標です。感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいです」と話しました。

福井氏（左端）によるテニス講座の様子＝仙台大学船岡南テニスコート

仙台大学の専門教養演習授業の記録（『女川を元気にする会』に参加して）

８月１日空手道部８名、チアリーディング部５名の一行は、女川町で開催された『女川を元気にする会』イベントに参加してきました。

女川を元気にする会では、仙台大学、宮城教育大学、仙台市内の中学校長らが実行委員会を組織し、女川の方々との交流を通じて、震災体験を身近に感じると共に、復興への思いを共有することを目的として、過去３回のイベントを行ってまいりました。

今回のイベントは４回目の開催となり、仙台大学に加え、東北学院榴岡高校、仙台市内の西山、桜丘、郡山の三中学校、宮城教育大学が参加し、復興へ向けた思い・願いを自らの特技を生かし堂々と表現してまいりました。

空手道部は基本技の披露に始まり、型の演武、板割の披露、チアリーディングは軽快な音楽に合わせての楽しいドリルを展開しました。

駆けつけてくださった女川町民の方々は、学生の迫真の演技を、満面の笑顔で鑑賞されておりました。なかには目に涙を浮かべながら声援を送ってくださる方もいらっしゃいました。

学生たちは、応援を背に受けて日頃の練習の成果を十分に発揮できたと思います。

イベント終了後に、町の高台に上り津波到達点を確認すると、あまりの高さに学生の口からは驚嘆の声がこぼれました。たくさんの方々が津波にのまれた地点にある献花台に献花を行い、海に向かって手を合わせ黙祷してきました。

学生一人一人は女川の皆様と大震災から立ち直る思いを共有し、共助の精神を培うことが出来たのではないかと思います。私たちが行った支援はほんの小さなものかもしれませんが、優しさ・明るさ・感動をさしのべることが出来たとすれば幸いです。

【空手道部主将　仙台大学３年
橋本太輔さんのコメント】

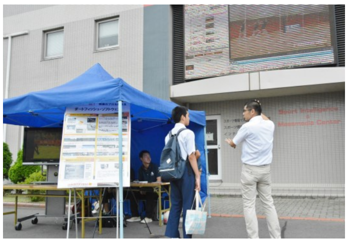
今回の私たちの活動で、少しでも被災地の方々に笑顔を届けることができて良かったです。またこれからもこのような活動を継続し、皆様に元気になって頂けるよう頑張っていきたいと思います。

【チアリーディング部主将　仙台大学３年
梅本千春さんのコメント】

震災から４年たちましたが、復興は未だ不十分であること、でも被災地の人たちは、ものすごく頑張っているのだと肌で感じることができました。

＜報　告：空手道部　部長　郡山 孝幸＞

オープンキャンパス2016



8月8日（土）、「仙台大学オープンキャンパス2016」を実施し、970名（生徒680名・同伴者290名）の方々にご来場頂きました。

オープニングセレモニーでは、小堀祥（こぼりしょう）さん（体育学科4年－栃木・作新学院高校出身）と宍戸香菜子（ししどかなこ）さん（健康福祉学科3年－仙台東高校出身）による元気溢れる司会で、会場の高校生たちを盛り上げてくれました。また、５学科の体験・紹介コーナーの他に、ミニ講座「教師になろう！」、ボブスレー競技でオリンピックに５大会出場のOB鈴木寛（すずきひろし）さん（平成8年体育学科卒）・ラグビーのキャノンイーグルスでアナリストとして活躍中のOB吉田享（よしだとおる）さん（平成23年スポーツ情報マスメディア学科卒）をお招きし、進路紹介「スポーツ選手を支える仕事」、小論文対策講座、個別入試相談会、仙台大学とオリンピックに・プロスポーツに関する展示会などを行ない、本学についてより興味を持って頂けるよう努めました。

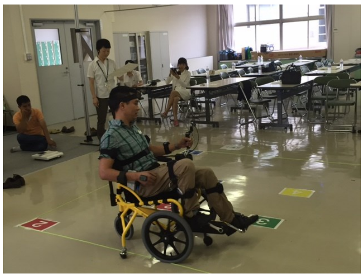
【過去３年のオープンキャンパスの来場者数】

年 度	来場者数
2014	865名（生徒：606名, 同伴者：259名）
2013	1,060名（生徒：771名, 同伴者：289名）
2012	936名（生徒：712名, 同伴者：224名）

ベトナム保健省及びバックマイ病院の関係者が来校

ベトナム保健省及びバックマイ病院の関係者と本学関係者との集合写真
＝仙台大学Ａ棟２階大会議室

8月20日（木）、JICA草の根技術協力事業（ベトナムでの足こぎ車いすを利用したリハビリモデル開発及び、リハビリ人材育成プロジェクト）の一環として、ベトナム保健省及びバックマイ病院の関係者が来校しました。ベトナムの関係各位は、朴澤泰治理事長・学事顧問や同事業に携わっている関矢貴秋教授らに挨拶され、本学の施設見学を行ないました。その後、足こぎ車いすの研究を進めている関矢教授の講義と実習を受けられました。「大変有意義な時間が過ごせた」とバックマイ病院の関係者の皆様からお言葉を頂きました。



関矢教授から講義と実習を受けられている様子＝転倒予防実習室
写真提供：朴澤理事長

仙台大学開放講座「楽しい園芸」をグローバルな視点で考える

平成27年8月19日（水）宮城いきいき学園仙南校の学園生を対象に「仙台大学開放講座」が開催されました。宮城いきいき学園仙南校は平成24年より学内施設を使用して月に1~2回、講義や運動など様々な授業を行っています。

今回の開放講座では75名の方が当学の遠藤保雄教授の講話を聴講されました。

講話では地球温暖化の問題について、他人事ではなく、自分のこととして考えていただくために、世界や日本の現状を分かりやすくお話いただいたのち、学園生が普段から楽しんでいる「園芸」がCO2削減のために非常に重要であるとご説明いただきました。講話の終盤の質疑応答では、数人の方から質問を頂くなど参加者も真剣に地球温暖化について考えていただけたと感じました。講話が終了したのち、参加された方からは「もっと長くお話を聞きたかった」「非常に面白かった」とのお声を頂戴し、今回の講話が自分自身のこととしてグローバルな視点で環境問題を考えていただく良いきっかけ作りになったと思います。

＜報 告：スポーツ健康科学研究実践機構
加 藤　琢 磨＞

第1回仙台大学心池会杯争奪剣道大会 第3回仙台大学心池会練成会

仙台大学剣道部心池会（ＯＢ会）が主催する、中学生を対象とした練成会を昨年度まで行っていました。今年度は技術向上を目指し、中・高生を対象にＯＢ、ＯＧの指導する学校やチーム以外にも声をかけ、県内はもちろん、岩手県、山形県、福島県から３３０人以上の生徒に参加をしていただき、８月１日（土）、２日（日）の両日にわたり、大会と練成会を行いました。

当日は、気温３４度を超える猛暑日でしたが、会場となった第一体育館と第三体育館、船岡体育館では、気温を超える熱い戦いが繰り広げられました。試合後は、笑顔の子や、涙している子、仲間を思いやり支えている子、そんな姿を見て、この大会や練成会に参加した子供たちの中から、全国大会で活躍してくれる選手が出てくれるだろうと確信しました。

この大会と練成会を開催するにあたり、前日の夜遅く、そして２日間にわたる早朝より駐車場の係、案内受付、審判や飲み物等の準備や運営に積極的に協力してくれた在学生に感謝しています。

また、体育館借用にご尽力いただいた齋藤浩二先生、学食利用や大会運営に携わっていただいたＯＢ、ＯＧの皆様にも深く感謝しております。この場をかりて御礼申し上げます。

最後に、今後も心池会及び在学生が協力し合い、仙台大学剣道部が更に発展していけるよう、ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

≪試合結果≫

◎中学男子

優　勝	草野中学校（福島県）
準優勝	桂昇舘（宮城県）
第３位	増田中学校Ｂ（宮城県）
	石越中学校（宮城県）

◎中学女子

優　勝	岩沼中学校Ａ（宮城県）
準優勝	梁川中学校Ａ（福島県）
第３位	逢隈中学校Ａ（宮城県）
	梁川中学校Ｂ（福島県）

◎高校男子

優　勝	米沢中央高校Ｂ（山形県）
準優勝	米沢中央高校Ａ（山形県）
第３位	白石高校（宮城県）
	専修大学北上高校（岩手県）

◎高校女子

優　勝	米沢中央高校Ａ（山形県）
準優勝	仙台第三高校（宮城県）
第３位	盛岡白百合学園高校（岩手県）
	米沢中央高校Ｂ（山形県）

＜寄 稿：仙台大学剣道部心池会
事務局　三浦　昇（平成10年体育学科卒）＞

青梅慶友病院の在職OB・OGが集まり懇親を深めました！

怪物ルーキーや俊足快打の三年生など，話題性に富んだ夏の甲子園大会が幕を下ろした8月20日，東京都西部に位置する青梅慶友病院に，朴澤泰治理事長から大塚太郎氏に宛てた温かいお手紙と共に「SENDAI UNIV.」のロゴが入ったポロシャツが届けられました。仙台大学卒業生に向けた朴澤理事長からのサプライズ・プレゼントです。その翌日の8月21日（金），青梅市の焼肉店に集まったのは「医療法人社団 慶成会」に在籍する34名。入店の際，一人ひとりに手渡されたポロシャツに全員が袖を通し，年齢や所属していた学科・部活動などは一切関係なく，学生時代の思い出や日常の仕事のことなどを語り合い，とても有意義な時間となりました。会の中で最も歓声が大きかったのは，遅れて来店した慶成会理事長である太郎氏が，私たちと同じポロシャツを着て入場したときだったでしょうか。「仙台大学の卒業生だけで焼肉店を貸し切ろう」という太郎氏の発令から2ヵ月，それが実現した瞬間でもありました。

慶成会という組織は1980年に開設された青梅慶友病院を中心に，高齢者専門の病院と関連事業を運営する医療法人です。開設翌年である1981年に小池和幸氏（体育学科11期卒，現仙台大学教授），1993年には草壁孝治氏（同13期卒，現青梅慶友病院レクリエーション科科長）が入職して以来，卒業生の採用は毎年途切れることなく続き，35年間で126名ものOB・OGが，社会人としての第一歩をここで踏み出しました。

仙台大学と慶成会の関係は，大学で教鞭をとっていらした故田中久子先生が，当法人の開設者である大塚宣夫氏（現慶成会会長）の義母であったことに始まります。「高齢者を対象とする病院に元気のいい若者を」という宣夫氏からの要請により，教員採用試験に合格するまで数年間のアルバイトとして，前出の小池氏が田中先生から勧められたことがきっかけでした。現在，法人全体の職員は約1,400名で，そのうち仙台大学卒業生は38名です。男性21名で女性は13名，年齢は22歳から55歳と幅広く，職種も介護職や医療専門職，そして事務職など多岐にわたっています。従来からOB・OGの活躍には定評があり，それぞれがそれぞれの立場で職責を果たすのはもちろんのこと，病院行事となれば裏方や盛り上げ役に徹し，さらには医療，看護・介護，そしてリハビリテーションといった専門分野での論文執筆や学会発表をこなしています。

今年の5月には，太郎氏が理事長就任後はじめて仙台大学を訪問しました。朴澤理事長はじめ，多くの大学職員の皆様から祖母にあたる田中先生のいろいろなエピソードを伺ったことで，幼少期の思い出と教育者としての田中先生のお姿を重ねる機会になったようです。さらに7月には朴澤理事長，阿部芳吉学長，大山さく子健康福祉学科長，小池教授，高崎義輝教授，笠原岳人准教授といった錚々たる方々に青梅までお越しいただき，卒業生の活躍ぶりを見ていただきました。今回，二度にわたって両理事長の会談が実現したことは，在籍する卒業生にとってはとても心強く，また実に誇らしい出来事であったことはいうまでもありません。このことを契機に，この度「仙台大学の卒業生だけで…」という運びになった次第です。普段，ごく数名で集まることはあっても，法人全体で，しかもオフィシャルなものとして卒業生が集うことは初めてでしたので，開始直後から大変な騒ぎになると予想していたのですが，意外なことに飲食もそこそこにテーブルごとで妙に品よく語り合っていました。しかし，開始から1時間半が過ぎた頃には緊張も解け，ようやくいつも通り飲んで語っての大騒ぎ。「仙台大学新卒の採用が3人以上だった年にはまたやろう」との太郎氏からの言葉に会場は大いに盛り上がり，まさに“宴”と呼ぶにふさわしい時間はあっという間に過ぎました。

一つの事業所に複数の卒業生が存在することは，公私の区別や組織への影響としてマイナスに見られることが多々ありますが，それはすべて先に在籍した“先輩”方の配慮のなさであり，それに気づかない“後輩”の責任でもあろうと思われます。幸運なことに，慶成会では職種や所属部署などが分かれていることに加え，事業所内すべての職員から評価されるといった仕組みがあることから，狎れあいのような部分は極めて少ないようです。また，評価の仕組み以外にも仙台大学で育まれた対人関係スキルと，“自分以外はすべてお客様”という慶成会の根底に流れるマインドが，とてもうまく融合しているようにも感じます。もちろんそこには，手探りで今の原型を構築された小池・草壁両氏をはじめとした諸先輩方，その方々を送り出していただいた田中先生，そして都度ご協力いただいている大学関係の皆様のおかげと心より感謝し，この誌面をお借りして御礼申し上げます。

ちなみに，来春仙台大学を卒業する学生5名に内定通知が出されました。2年連続で卒業生の集いが開催される可能性は濃厚と一同今から心待ちにしております。

＜寄　稿：医療法人社団 慶成会 青梅慶友病院
部長兼リハビリテーション室長　福田卓民
（昭和63年体育学科卒）＞

OB紹介・柴田町スポーツ振興課長　石上幸弘さん

インタビューで笑顔を見せる石上さん＝船岡公民館内

現在、本学の所在地である柴田町の役場に勤務している卒業生は、１１名（退職者等４名）。今回は、その内の一人であるOB石上幸弘さん（昭和57年体育学科卒）にインタビューを行ないました。石上さんは、平成27年4月1日付けで、課長職（スポーツ振興課長）に昇進されました。柴田町役場における本学卒業生の課長職昇進は、OB安部俊三さん（現柴田町議会議員／昭和47年体育学科卒）以来２人目です。

原点は柴田町民の笑顔

柴田町船岡公民館に伺い、石上さんへ柴田町役場に就職したきっかけや今後の抱負などについてお話しをお聞きしました。

Q1．柴田町役場に就職したきっかけ―

仙台大学在学時は、「社会体育コース」に所属していました。当時、就職担当だった柔道の川村巖先生から「柴田町役場で社会体育分野の人材を探しているので、役場の採用試験を受けてみないか」と勧められました。大学時代、船橋出身の私は、槻木が柴田町にあることも判らず、町のことは全く知りませんでした。しかし、私のアパートの近くに住むおばさんから生卵を戴いたり、ごみの出し方を教えてもらったりするなど地域住民の皆様の優しさや、温かさを感じることは多かったです。当時は、学生たちを温かい目で見てくれていた時代だったと思います。地域のために何か役立ちたいという熱い思いをもって試験に臨み、採用試験に合格することができました。

Q2．柴田町役場の仕事は―

役場の仕事は、デパートに置き換えることができると思っています。町に関する全てを何から何まで覚えなくてはなりません。例えば、「水道」・「税制」・「教育」・「環境」など人事異動がある度に、一から新しい仕事を覚えるのは大変です。４年間お世話になった柴田町に倍の恩返しがしたいと思って仕事をしてきましたが、その恩返しがいまだにできていないと思っています。逆に町民の皆様に大変お世話になっています。退職までには、町民の皆様から７０点くらいの合格点がもらえるよう頑張りたいと思っています。今後もきめ細かい町民サービスの提供に取り組み、町民の笑顔を見ることが何よりの幸せであり、私の原点です。

Q3．課長になって心がけていることは―

私の発言が他の部署に影響を及ぼすこともあるので、同じ事を言うにも言い方や、言葉を選んで慎重に考えて話すように気をつけています。責任と権限がある程度与えられ、今まで以上に一生懸命働きたいと思います。

仙台大学と一緒になって行なう「トップアスリート育成事業（地域創生事業）」を成功させ、大学のためにも町のためにも貢献できれば嬉しいです。

Q4．今後の抱負―

柴田町では「総合体育館」を建設する構想があります。町民に愛され、笑顔で利用できる施設になるよう協議を重ねていかなければなりません。

また、大学と連携して「総合型地域スポーツクラブ」を活性化していきたいと思います。退職まで４年と数カ月ですが、この２つのことに道筋を付けて取り組んでいきたいと思っています。

Q5．後輩達へのメッセージ―

目標が夢に終わらないよう努力を重ねることが大事。チャンスは人に与えられますが、そのチャンスを生かすかどうかはその人次第です。あらゆることに興味関心をもって、新たな領域に挑戦する意欲と勇気を持ち続けてほしいと思います。

PROFILE

石上　幸弘（いしがみ　ゆきひろ）／柴田町スポーツ振興課長

昭和34年5月7日生まれ。Ａ型。千葉県船橋市出身。
仙台大学体育学部体育学科卒。大学時代は、バレーボール部に所属。
趣味はラジオ体操とジョギング。好きな食べ物は（奥様が作った）煮物。
座右の銘「学問に王道なし」。
【職歴】昭和57年4月柴田町教育委員会社会教育課に配属。その後、槻木公民館・都市建設課・水道事業所・柴田町社会福祉協議会出向・船迫生涯学習センターなどを経て、現在に至る。

本学の佐藤久夫教授率いるバスケットボール男子の明成高校がインターハイ初優勝

写真提供：明成高校

8月3日（月）、全国高校総体（インターハイ）のバスケットボール男子決勝がハンナリーズアリーナ（京都府京都市）で行なわれ、本学の佐藤久夫教授率いる明成高校（宮城県）が桜丘高校（愛知県）を９２―６９で下し、初優勝を果たしました。

本学と姉妹校である明成高校は、「高大連携」の取り組みの一つとして、男子バスケットボール部の強化を行なっております。

引き続き、明成高校男子バスケットボール部への熱い応援をよろしくお願い致します。

会場であるハンナリーズアリーナには、本学の前若井彌一副学長【写真】（現：京都光華女子大学　副学長・こども教育学部　学部長）が、大変お世話になった本学の、姉妹校である明成高校男子バスケットインターハイの初優勝がかかった試合と知り、酷暑のなか昨日と今日の２日間、応援に駆け付けて下さったそうです。

優勝が決まった瞬間、若井先生は大学に電話を下さり「明成男子バスケットインターハイ初優勝おめでとう！やっぱ明成はすごいですね。いてもたってもいられずに応援に来たけれど昨日はお客さんがいっぱいで、パブリックビューイングにすら入れませんでした。今日も会場は満杯でしたが幸いパブリックビューイングで応援することができて本当に良かったです。関係者のみなさんに祝意をお伝えください」とおっしゃっていました。京都からの熱い声援が、明成の選手達に届いての初優勝。若井先生、誠にありがとうございました。

男子サッカー部、10年ぶり2回目の天皇杯出場へ

10年ぶり2回目の天皇杯出場を喜ぶ仙台大イレブン＝宮城県サッカー場

8月23日（日）、宮城県サッカー場で「第１９回宮城県サッカー選手権決勝　天皇杯サッカー宮城県代表決定戦」が行なわれ、本学男子サッカー部は「ＪＦＬ・ソニー仙台ＦＣ」と対戦。本学が３－１でソニー仙台ＦＣに逆転勝ちし、１０年ぶり２回目の天皇杯出場を決めました。

試合は、前半１９分にペナルティーキックで先制される苦しい展開。しかし、後半６分にコーナーキックからDF榎本滉大（えのもとこうだい）選手（ベガルタ仙台特別指定選手／体育学科３年－群馬・共栄学園高校出身）がヘディングシュートを決め、１－１の同点に追いつきました。また、後半２７分には途中出場のMF蓮沼翔太（はすぬましょうた）選手（体育学科４年－柏レイソルユース出身）が技ありの右足シュートを決めて勝ち越しに成功。さらに、後半４０分にはFW川島章示（かわしましょうじ）選手（スポーツ情報マスメディア学科３年－柏レイソルユース出身）が落ち着いてペナルティーキックで追加点を決め、ソニー仙台ＦＣを突き放しました。

試合終了後、本学男子サッカー部の吉井秀邦監督は「準決勝では東北社会人リーグ王者のコバルト―レ女川に勝利し、決勝ではＪＦＬセカンドステージ負けなしのソニー仙台に勝利できたことは自信になる。最後まで選手たちが粘り強く戦ってくれた。天皇杯では、宮城県の代表として１勝し、２回戦で是非ベガルタ仙台と対戦したい」。２点目のゴールを決めた蓮沼選手（同）は「何が何でも結果を残そうと思っていました。結果を残せてよかったです。ファーストタッチがうまく決まって、ゴールに繋がったと思います」と話しました。

硬式野球部が楽天二軍と交流戦―馬場投手が好投

仙台大学硬式野球部と楽天二軍との交流戦の様子
＝楽天Koboスタジアム宮城

8月25日（火）、本学硬式野球部は「楽天Koboスタジアム宮城」で東北楽天ゴールデンイーグルスの二軍と交流戦を行ない、０－９で敗れました。

試合は、先発・馬場皐輔（ばばこうすけ）投手【写真下】（体育学科2年－仙台育英学園高校出身）が６回０／３を被安打２、自責点２に抑える好投を見せました。馬場投手は、７回無死二、三塁のピンチを招いたところで降板しましたが、大きな自信と経験を得ることができました。

天皇杯サッカー１回戦・劇的ゴールで初戦突破―2回戦はJ1ベガルタ仙台に挑戦

劇的な決勝点を決め喜ぶDF山田選手（赤10：左端）
＝八戸市東運動公園陸上競技場

天皇杯全日本サッカー選手権に１０年ぶり２回目の出場となった仙台大学（宮城県代表）は、8月30日（日）、１回戦に臨みました。相手は、ＪＦＬファーストステージ優勝のヴァンラーレ八戸（ＪＦＬシード）。０－０で迎えた後半アディショナルタイムに本学のDF山田満夫（やまだみつお）選手（体育学科2年－Ｊ１松本山雅－北海道・帯広北高校出身）が決勝ゴールを決め、１－０で見事勝利。仙台大学は２回戦へと駒を進めました。２回戦の相手は、チームが目標に掲げていたOB奥埜博亮選手（平成24年体育学科卒）・OB蜂須賀孝治選手（平成25年体育学科卒）が在籍するＪ１ベガルタ仙台との対戦です。

劇的な決勝弾を決めたDF山田選手（同）は「ゴールを絶対決めるという強い気持ちで左足を思い切り振り抜きました。チームの勝利に貢献できたことが最高に嬉しいです。仙台大学サッカー部出身でベガルタ仙台の奥埜さんと蜂須賀さんとの対戦がすごく楽しみです。やるからには、チーム一丸となって結果にもこだわりたいです」と必勝を誓いました。

天皇杯２回戦は、Ｊ1ベガルタ仙台【日時：９月６日（日）１５時～、場所：ユアテックスタジアム仙台】に挑みます。引き続き、仙台大学男子サッカー部への温かいご声援をよろしくお願い致します。

阿部学長（中央）と初戦突破を喜ぶ仙台大イレブンら